＜祈祷会の聖書から＞

【牧会は二人から】聖書箇所はマタイによる福音書１８：１５以降になります。“もしあなたの兄弟が罪を犯すなら、行って、彼とふたりだけの所で忠告しなさい”という、主イエスの教えに始まるところです。教会というところも、いろいろの考えを持っている人が集まっている所であります。しかしバラバラになって気の合うものどおしが集まるところでもありません。皆が知っている通りに、復活の希望に生きる群れです。ここに忠告すべきことがある、そのような場合にどうしたらいいのか主は教えられます。罪を見出したら、まずその人に忠告しなさいというのです。これはもう教会の働き、すなわち牧会になります。兄弟の忠告の大切さをまず教えられます。これはまた“忠告することの大切さ”も意味します。そんなことは分かっている、と思えるようですが、実は私たちは忠告することをしばしばためらってしまうのです。反対に恨まれてしまうように思えたり、そうでなくても、しんぼうするのが正しい信仰者等と思ったりします。

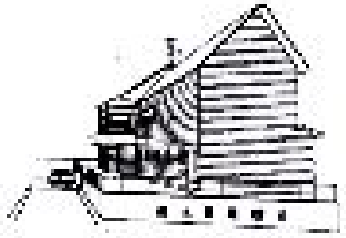
【教会の権威】“あなたの上に建てあげよう（マタイ１６；１８）”といわれた教会は、罪の赦しが目の前で行われることを見る“洗礼”が行われる場所です。ですから、教会は人の罪よりも先に、“懺悔の祈り”が捧げられる度に、まず罪を告白しているのです。聖餐のたびにこの祈りは繰り返してなされます。そして謝罪の祈りも捧げられます。

【それでも】それでも、放ってはおけない様な事は、次から次へととめどなく起こって来ます。今は罪という言葉をもちいて語りますが、嘆き、悲しみや、困難と同じことです。二つの結果をよく見ることでしょう。一つは、裁かれる前に教会を審判してしまうことです。“この教会は私にはふさわしくない”とばかりに、主の赦しを裁いて去って行く人も少なくないと思います。もう一つは、その人を裁こうというのです。教会の憲法・規則等にも、“聖餐に与ることの禁止”に始まり、いくつかの戒規があります。“聞かないなら、教会に申し出なさい（１８：１７）”につづいて、“異邦人または取税人同様に扱いなさい”と教えられます。ここで終ってしまえば、教会は冷たい所ということになります。主イエスはどのように教会に求めておられるでしょうか。ここで“懲戒”という言葉の逆転が起こるのです。“ザアカイよ、急いで下りてきなさい。きょう、あなたの家に泊まることにしているから（ルカによる福音書１９：５）”といわれた人は取税人でしたし、ほかならぬマタイのことも私たちは知っています。

【残念なこと】このようには出来ていない教会は、忠告も出来ない時が多く、赦しについて忠実ではないことを、告白すべきでしょう。

週　報

２０１０年　１０月　１０日



伝えよう　救い主を
迎えよう　主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師　　村上　定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前　9：00
礼拝式	毎日曜日	午前 10：30
	（聖餐式　第一日曜日）	
夕礼拝式	毎日曜日	午後　7：00
エステルの会	毎水曜日	午前 10：30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後　7：00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885
静岡市清水区草薙杉道３丁目２－２６
☎054-345-4070　　E-Mail grace@big.jp
振替口座　00890-6-214042